（明治三十八年七月廿六日第三種郵便物認可）

滿洲日報

發着時刻表
線
大石橋着　遼陽着　蘇家屯着
孟家屯着　長春發　寬城子着
前　後
上り　下り
蘇家屯發　奉天着
運賃

淸曆九月七日（きのと、ひつじ）

●新聞代價表
一枚三錢　一ヶ月前金六十錢
半ヶ年仝三圓四十錢　一ヶ年仝六圓五十錢
滿洲各地への配達は郵稅一切不申受

●廣告料
五號活字十九字詰一行一回五十錢
特別廣告仝

發行所　營口南本街　滿洲日報社
電話　編輯室一一　事務室二九

遼陽停車場前　滿洲日報社支局
奉天大東門內　滿洲日報社支局
仝十間房　滿洲日報社出張所
鐵嶺火神廟街　滿洲日報社支局
公主嶺支那町　滿洲日報社出張所
孟家屯驛前　滿洲日報社支局
大連信濃町　滿洲日報社支局
長春城內　滿洲日報社出張所

每日錄

和田生稿

籠居を善用す可し

寒帶地域に棲息する人間の生動的作用は渾て緩漫にして、進取勇潑の氣慨を沒し、而して物事を精神的に處決するの能力を缺き、徒らに煖爐を抱いて已れか巣窟に籠棲するを是れ絆とす。仮令へはエスキモー、アイヌの如き生活狀態は殆んと蠢動に呢かし。

而して人間自身に有りては、故らに籠城生活を絆とするの考無きも、猛寒は漸々人間を萎縮せしめ、惰落せしめ、沮喪せしめ、失心せしむ。是れ則ち自然と人生の交渉也。

營口は寒地也。大連よりも冱し。年を跨つて一度は獰猛なる西伯利亞颪を受くるの地也。而も這の地の衰頽は今尚ほ著しき恢復の迹現はれさるに、搗て丶加へて今又た荒冬の季に對は丶、戸毎に門を鎖して、御武家屋敷に髣髴たらんとす。吾人は實業家を問はす、官吏を論せす。凡そ何種の人間を選はす。大に此家居潜伏の季節を利用して各々恒常採りつ丶ある業務に就き、或は物質的に或は抽象的に修養を爲し、而して來春氷雪融解の際を俟ちて、宜しく捲土重來の活動を致されん絆を溢む者也。

公立圖書館を設く可し

市民に向つて精神的慰安を與へ、精力的立脚の根據を訓へ、而して有ゆる抽象的欲望を滿足せしめ以て高崇なる思想を涵養せしむる圖書館を設くるに若くは無し。這の地往日より百鬼夜行、殊に淫婦徘徊跳梁して甚だ嫌焉たるの處。斯の如き注文を爲すは、尠しく注文が過當なるやの感ありと雖も、而も亦た徒らに鼻毛を讀まれてカイゼル髯を振り廻はすが營口人士の本能にも弗らさる可し。閑あらは鼻毛を讀まるゝよりも寧ろ大に書を讀むの好癖を作れ。成程鼻毛を讀まるゝも亦た一種の愉快なれど、讀書の愉快と校ふれば奈何ぞや。前者は二分乎三分の間也。後者は永劫無究也。無益の殺生を節約して、公立圖書館を設立するに焦く可し。敢て營口人士の肯頷を促がす。

營口の天狗紳士

余は營口に就ては初馴染なるが故、未た營口に關して甚だ詳にせすと雖も、余の眼に一番先の初見世をなせしは、到る處に天狗紳士の徘徊する事也。劇場に於て然り。街道に於て然り。店頭に於て然り。實に營口人士は天狗紳士を有するの光榮と名譽を擔ふ。人間の最も可きは其の得意の時代にありて能く得意がるに在り。現ま營口人士は過渡時代の營口人士也。鼻を天狗と較ふるは稍々其期を早ふす。天狗紳士は余は大嫌也。具眼の士以て如何と爲す。

□後藤男爵の抱負

……嘗て萬國青年大會にて……

諸君、我等は世界の平和並に人道の爲に盡さんとはするものなり、南滿鐵道總裁として余は敢て云ふ滿洲は東西兩偉人の交接點なりと、余も此地を爭點とするを好まず宜しく平和の交接點たらしめんとは、余の熱望する所なり、余は疾くより其の重任を自覺す、而して此際斯の如き世界的の大會が擧行さるゝは、大に人意を強うするものあり。嘗て東西兩洋は全く別個のもの丶如くに思惟せられたりされば今や此懸隔せる兩洋は互に相接近するに至れり、英の大詩人は云へり、「兩端相會するの時假令彼等は世界の極端より來るものなるも其所に東西兩洋の別なく亦何等の差別なし」と即ち我等は等しき事業に從事せるものとして、東西兩洋の別なきものなり

善隣時事

▲都察院と下議院　資政院に於て目下下議院設立に關し調査中の折柄某大臣は都察院を變して下議院の基礎たらしむへしと上奏したるものあるより該院の御史等反對運動を試み遂に特別會議を開き反對上奏を爲したり其要に曰く國會の議長は民選議員の撰擧によりて定め君主の裁可を得べきものなり而かも國會の議事は定期に上奏すへきものにして都察院の隨時なると異る所あり都察院は必要機關にして下議院を設立するも未た俄かに撤去すへきものにあらす歳出入の檢査政府の彈劾及び官吏の監督等の如きは議院の力以て及ふ所にあらす殊に都察院の臺長か感知する所を以て一般臣民の聲となすか如きとあらは其弊數ふへからさるものあり故に都察院を以て下議院の基礎と爲すの議に付きては全く反對の意見を有するものなり云々

▲淸國刑法の告成　修律大臣沈侍郎か前年刑法編纂の命を受けてより各國に委員を派して其刑律の調査を爲さしめ特に我か岡田博士を聘して修正の任に當らしめたりしか從來三星霜を經稿を易ふる四たび漸く告成するとを得過日奉呈したる由なるか此新定刑法は岡田博士等の熱心なる考案により頗る整頓せるものにして若し此法天下に行はるゝに至らは司法權の獨立治外法權の廢撤は直に實行し得へきものなりと云ふ尚ほ此等編纂委員に對し不日褒賞あるへしと傳ふ

●鸞金稅免除の要求　外務部の消息に依れは湖北在留の英國商人は鸞金稅の過重なるに依り諸種の貨物の運輸を滯阻せらるゝを以て駐京の英國公使に向ひ鸞金稅を暫時免除して以て商業の疏通を計られんことを申稟したるに英國公使は此旨を領し外務部に照會し來りたる由なるが外務部は稅務處と度支部とに相談して然る後ち何分の回答を與ふ可き旨を通知したりと云ふ

●軍機處と測量地圖　軍機處諸大臣は現に日本が間島を以て韓國の有と爲しつゝあるが此の如きは實に各省大吏の版圖に就き未だ能く詳細を周知せさるに原因するを以て前さに各省督撫に命し速に地圖を調製して政府に差出すへき旨を傳へたりしも送り來るもの仍ほ寥々たるか故に今復各省に電飭し員を派して版圖境界區域を精密に調査し明晰なる測量圖を製して之を政府に送り以て參考に備へ邊防を固ふすへしと

▲南洋考查大臣の出發　今回南洋諸島に於ける淸國人の僑居情態視察の爲め派遣せられたる南洋考查大臣楊士琦は愈々本月八日天津を出發したり聞く同氏は革命黨運動を查察する爲め上海に約一ヶ月滯在しそれより南洋に向け出發する筈なりと

世界列國の進步

外文抄譯

近著のデーリーエキスプレッスは、文明列國の社會的進步を論じ其の社會進步の狀態を數字を以て現はせり曰く

●人口●

文明世界の社會的進步を論ずるに方り、先づ首として擧ぐべきは、最近十年間に世界列國の人口が六千三百餘万人の增加を爲したること是れ、換言すれば去る千八百九十五年には五億〇六百万人なりしもの、千九百五年には增して五億七千万人と爲りしこと是なり。試みに之を數字にて示せば左の如し（表中千人を本位さす）

國名	一八九五年	一九〇五年
露西亞	一二五、〇〇〇	一四一、二〇〇
合衆國	六八、九三四	八三、一四三
獨逸	五二、二七九	六〇、六〇五
日本	四二、二七〇	四七、九七五
英吉利	三九、二二一	四三、二二一
佛蘭西	三八、四五九	三九、三〇〇
伊太利	三一、二九六	三三、六〇四
墺地利	二四、九七一	二七、二四一
匈牙利	一八、二五七	二〇、一一四
西班牙	一八、一五七	一八、九〇九
其他	四七、七三二	五四、一六六

文明列國中、人口の最も稠密なるは白耳義にして、人口の最も稀薄なるを北米合衆國とす、之を數字にして示さんか

國名	面積（方哩）	每一方哩人口（人）
合衆國	三、五六七、三七一	二一、四
露西亞（歐部）	二、〇一二、四〇〇	五一、三
西斑牙	一九四、七四四	九五、五
匈牙利	一二五、三九一	一五三、六
佛蘭西	二〇四、三一二	一九〇、七
墺地利	一一五、八〇二	二二五、八
獨逸	二〇八、七二七	二九〇、四
日本	一四七、四七六	三一六、九
英吉利	一二一、三七一	三〇一、六
和蘭	一二、五五九	四〇六、四
白耳義	一一、三七〇	五八八、七

總面積と總人口とを比算すれば、即ち每一方哩の人口前表の如くなりと雖も、而も一國として比算せず、一州若くは一都市を以て算すれば、人口最も稠密なるは獨逸のハンザ市にして、每一方哩の人口實に三千三百二十七人に當る。

世界列國民の出產死亡統計表を精查ずれば、趣味ある事實を發見ずること多し、例へば露國は出產の割合高さに於て世界列國民中の第一位を占め、人口一千人每に四十九人の出生者あるに當れるが、死亡者の割合も亦た第一位を占め、人口一千人每に三十一人を算す。之に反して出生者の割合最も低きは佛國にして、千分の二十一の低率を示し、死亡者の割合は千分の十九、六に當り、年々少許づゝの人口增加を見ること前揭の統計表に示す所の如し

西斑牙、伊太利、墺地利、匈牙利及び日本の出生者の割合は、千分の廿二に當れるが、死亡者の割合も亦た頗る高く、中に於て割合の最も低きは日本にして、實に千分の二十に當り、其の割合最も高きを西斑牙とし、恰も千分の二十五、八に當る亦た死亡者の最も低きは丁抹にして、正さに千分の一六、五に當るか、出生者の割合も亦た頗る高く、僅々二十七、六を示すのみ、要するに最も大なる人口統計は、之を歐洲の東部方面に發見するを得べきなり

●都市●

文明列國の都市中にて人口四百万以上を有するは、唯だ一の倫敦あるのみ、而して倫敦に次いで第二位を占むるを紐育とす。試みに人口一百万以上を有する都市を列擧すれば左の如し

	人		人
倫敦	四、八七二、七一〇	紐育	三、四三七、〇〇〇
巴里	二、七一四、〇〇〇	伯林	二、〇四〇、〇〇〇
東京	一、八一九、〇〇〇	市俄古	一、六六九、〇〇〇
維也納	一、六七五、〇〇〇	費府	一、二九四、〇〇〇
聖彼得堡	一、二六五、〇〇〇	莫斯科	一、〇三九、〇〇〇

滿洲百人物

（一二）土居純橘

壓制に對する自由の號叫は即ち革命也。世は擧げて這の革命熱が漲り度り、凄殺の氣到る處に人を襲ふの時。自由くの本場たる海南烟雨の地、壓制政府を顚覆せよ！自由は勝利の聲山河を碎く。敗獸勝誇一駛一追、幾んど其堵に安ずる能はず。氏は當さに此時一個准陰居中の若衆。傲岩剛戾にして人に下らず、時世の趨勢に就ては詳ならずと雖も亦た自由の琴線に觸れて大に興奮す。偶々西山志澄の一軍郡を過ぎつて西に去るに際し、擢でゝ青年軍の一方を指揮す。栂野峠の峻嶇に到り全軍頓に沮む。氏荐りに大聲疾呼して大に勵ますと雖も、豫め敗を卜して衆容易に進まず。遂に氏は猛然劍を按じて歷階して高陵に登つて曰く。今日朝瞰より出て丶未だ戰はず、今に臻つて震慄するは抑も何底ぞ！咄志澄の徒輩與に談ずるに足らずと。喝一喝して單身孤獨夜三更、鬱々たる六百年の森籟を度つて馬に走るのバイロンとなり、或は隈山麾下の谷村計助となり、四十有餘戰未だ曾て自由の爲めに倦まず、豪膽今尚は海南の政界に知らる。七歲の前、林有造を罵倒して這地に來れる一介不逞の青年は即ち氏也。所謂當世の先輩を難じ、後進を論じ、熱烈縱橫席を掩ふものあり。現ま牛家屯にありて煉瓦製造所を督し、迥かに雲煙過眼を粧ふ。側に艶麗の妻君を擁し、前途の春秋も亦た豐かなるの好漢幸ひに自重せよ。

信託事業に就て

覆面冠者

頃ろ營口に於て信託事業に就て彼是論評する者が多いやうだ、人生といふものは相互に信託しなければは成立たね、況んや各種の財產問題、企業問題に於ては言ふ迄もなく、相互組織信託關係の下に最も巧妙に處分しなくてはならぬ、だから信託事業に從事する人は全然營利の目的を離れ、獻身的に活動しての宗教家を以て自ら任じ、畢生の精力と愛を此事業に捧けて敢て少しも惜まぬといふ人あらはなくてはならぬ、社會は歡んで之れを歡迎するのであらう

信託事業は英米兩國に於て最も進步發達して居る、多年米國にあつて該事業の研究をなせる高木正義君は「信託要義」を著はし、信託の性質を遺憾なく說明した、讀者にして若し同著書を一讀過せられなは信用制度に關する英米諸大家の意見も其現狀をも詳しく知ることが出來やうと思ふ

財產を信用ある責任者に信託するのは銀行へ保管してもらうよりも一段と安心だ、特に遺產管理なんかは信託者に託するが一番安心だ、又た會社や公共團體の財產管理、其利殖方法の一切を擧て託するのもよろしい、併し之は人の問題である、信託事業をやる其人物によるので、若し當事者が惡ければ信託者に莫大なる損害を及ぼそことノなる、だから委托者は當事者の行動を直接に監視しなくてはならぬ、然らずんば會員組織として相互に監督したらばよろしい

本國では法律の下に監督せらるゝが海外特に殖民地ては公使領事の監督によらねばならぬ、だから用心深い外交官は寧ろ其禍を全然未發に拒ぐ手段を採る、之も一便法てあらうが余輩に言はしめたなら積極的に監督の方法を立てたら滿更不安心でもなからう、併しそれても心元なしと思へば相互組織の信托事業を迎えたらよからうと思ふ

小國民の作物（五）

某小學生投

夕方

夕方になつたから外に出て見たら隣りの金ちやんがでていた小學生などを讀んでいると俄かに「ガラ」「ガラ」と音を立て郵便屋が車を引いて通つた空には雲一つなくただ星さんばかり光つている九時をならす會社の「プー」が鳴つた同時に家の中で時計が九時をうつた金ちやんとわかれて家にかへるとそれには一人通りもやんで家々の戸をしめる音ばかりだ

▲日報文壇▼

遊韓宮　佐々木照山

雲車驅雷霆。不用加玉鞭。相會紫微坐。笑先指日邊。

次韻　藤井千山

飛揚三萬里。雲背擁風鞭。俯瞰韓山小。怒濤來日邊。

秋雜詠　さる人

撫子は白萩まじり肥の國のわが家の垣によろけ咲くかな

君が胸石にもまさる冷たさに泣くと申さばうらまれぬべき

戀はるゝとせちなに心ふと和み少女ながらに死なむとぞ思ふ

快男兒

第八十九回　渡邊默禪

棟「ヤッ、立花が仆れて居るぞ、ムッ血……血がッ、斬られたな」と、棟庵は朱に染つて蠢き居る書生を見て喫驚なし、急き扶け起して　棟『コレ立花、シ、確乎しろッ、疵は淺い樣だぞ』立花は面を顰めて身悶して　立『アヽ痛い〳〵、こ、是ぢやア迚も生きられさうもない、せ、先生ッ、死ぬ、死にます、た、助かるものなら、情願死なない内に、お早く願ひます、アヽ痛い〳〵　棟『死にますといふ奴に限つて死んだ例は無い、心配するな今療治をして遣る、併し、賊は如何した、ど、何處へ逃げたッ　立『に、逃げた方へ逃たンでオヽ、痛　棟『痴漢それは、言ずと知れて居る、オイ菊代、何ぞ取られた物が無いか其邊を見て吳れ、翟々して立つてばかり居たつて仕樣がない　菊『阿郎こそ早く追蒐けて手捕になさいましな、立花の側に粘り着いて居たすッたクて、泥棒が後戾りをする氣遣いは御座いません　棟『如何も困るな、私一人てよ……彼の横山は何を爲て居るのか、這那騷ぎにもグー〳〵の高鼾で寢て居るのか、呆れ返つた寢坊だ、和女早く叩き起して此處へ引摺つて來なさい　菊『エヽ、横山なら今見ましたよ、床が小盛高くなつてゐるから、寢て居る事と思つて布團を剝り取つて見ましたら、マア驚くぢやア御座んせんか、寢卷へ書籍などを包んで人形に拵へて、其上へフワリと夜着を懸けたので、主は蟬脫の殼なんてすよ　棟『居ないのか、何處へ行きくさつたか仕樣の無い奴だなア　立『先生、横山は宵に脫走をして吉原進擊を……アヽ痛ッ　棟『何女郎買に行き居ッたのか、重々怪しからん男だ、それに菊代、花は見えないが如何したッ　菊『眞逆女が遊女町へ行きはいたすまい、コレ花、花や〳〵』と呼び立つると幽かに答ふる聲がする　菊『オヤッ何處でか『ハイ』といつて居ますよ、妙だねえコレ花や、何だか陰に籠つた、薄ッ氣味の惡い返事が聞えるよ、花や何處に居るのだ椽の下てはなし、天井でもなし、ヘテナ……アッ分つた、此處だ此處だ』と勝手の戶袋をサラリと開ると、中に豐滿肥りの立臼より大なるお臀を押立て、裸體の儘にて隱れ居たる細女命、忽ち菊代に引出されて、蜘蛛の巣たらけの顚狂なる顏をヒョイと火影に出し　花『オヤ〳〵御新造さまだ、妾アまだ先刻の泥棒かと思つて、えらく肝を潰しましたよ、オヽ怖、既の事に命を取られる所だつた、命は惜かア無いけれど妾が死んだら深く言交した、立花さんは泣だらうと思つてね、後生大事に戶棚の中へ隱れン坊……イヤ旦那樣も其處に居つしやるのかアハヽ、大變な事を喋舌ッちまつたオヽ恥かしいと、盆の如き手掌に顏を隱したるも可笑し、恁る滑稽を重ねつゝも左までに重からぬ書生の疵を一應手當をなし、逃失せたる賊ゝ邸內に潛みあらぬかと搜索したるが、庭先の塀に設けたる非常門の鍵を外して逃行きたる形跡あるのみ、早や影を止めざるに、紛失物の有無を改めたる所、驚くべし、離亭の寢床近くに置きたる手文庫中に、金子三百兩と清水義嗣より來りたる密書を入れたるが盜み取られ殊に土藏の戶は破り去られて、大事の玉なるお琴の姿が煙とばかり消失せたるにぞ、流石の棟庵もアッと驚いて少暫は夢の心地をなしたり

□米國未亡人氣質

去る八月二日のこと、米國はミシガンで、ジョールスと云ふ人の葬式があつた、例の通り寢棺を穴の中へ入れ、未だ土も掛けぬに、會葬者の一人の某紳士世にも悲しい面地で居つた未亡人に結婚を申込んだ、此紳士は未亡人のあまり知らぬ人であるが弱き程から如何にも其夫の死に對して、同情に堪へぬ氣の振舞のありくさ見えて、何さなくそゞろ床しく思ひ居る矢先き故實はこちらよりこそと即座に納得したのみならず、嬉しさ餘つてや、其紳士の肩に凭れかゝつて、感謝の淚に咽んだ、翌日エルクハートと云ふ遠方へ出發し同地で結婚式を擧げた

我紙は滿洲商業の唯一機關を以て任じ記事精確趣味豐富在滿邦民及び滿洲の事情を知らんと欲する者は一日も我紙を閑却すべからず

倫敦電報

●彼國の宣言（十日特發） 在彼斯國テーラン、タイムス通信員の報ずる所に據れば同國議會の委員は英露協約成立の通牒に對して英露兩國に送附すべき答書を認め彼斯國は英露兩國の善隣國なれども他國の爲めに自國の讓與權を支配せらるゝことなく又た現在の各讓與は尊重せらるべきものなることを宣言せりと

●佛兵の死傷（同上） 摩國に於ける敵酋族の一隊は友酋族保護の任に在りし佛軍をウジダ附近に攻撃せり佛軍の死傷五名にして敵酋族の損害多大なり

●墺匈皇帝御病氣（十一日特發） 墺匈兩國皇帝フランシス、ジョセフ陛下の咳嗽猶甚だしきを以て豫て昨日と決定ありし兩首相の謁見は延期せられ匈國首相は空しく首都ブダペストに歸還せり御高齡のことなれば陛下の御病狀に關して稍不安の念を生ずるに至れり然れども充分御全快の望みあり

東京電報

●憲兵撤退要求 十二日午後一時十分東京特電 支那政府より又々間嶋派遣の憲兵撤退を要求し來りたるも我政府は右は軍隊と性質を異にする故應する能はずと回答せり

大連電報

●滿鐵材料船の浮上 十二日午後一時五十分大連支社特電 滿鐵の材料を積み米國を發しボルネオ附近にて座礁せる瀛船滿潮に浮上り出帆當地に向ひたり尚ほ此船は豫定より一ケ月延着す可し

●廣軌運轉期 廣軌の列車は先づ旅順大連を運轉ず可し多分來月初旬より又た大石橋迄は本年中に廣軌の列車運轉するを見る可し又た廣軌運轉す可くレール敷設は本年中に全線結了す可し

●豆粕荷車の供給 本年は石炭運搬列車を減じ豆、豆粕の爲めに供する由なれば豆、豆粕に對する荷車の不足を訴ふる事無かるべし

●小學校運動會 大連小學校秋季運動會を催す來會生徒七百八十八名昨年當時に比し五百餘名の増加

●滿鐵工作課運動會 明日滿鐵工作課内紅葉會の運動會有る筈

●相撲の慈善寄附 昨日慈善角力收入經費を差引き殘金六十五圓是に有志の寄附を合し三百二十八圓右は大連慈善事業に夫々寄附さる可し

●官制改革の風說 都督府民政部の官制改革近々發表さるゝが如し・

雜報

●倫貝子殿下の御訪問に付て 吾皇室より昨年伏見宮殿下を差遣して清國宮廷を訪問せしめられたる答禮として今回清國宮廷より吾皇宮に差遣せらるゝ事に確定されたる倫貝子殿下に付きて聞くに同殿下の祖父は道光帝の皇太子にして此の皇太子は廿幾歲にして夭折せられたるを以て其の實弟即ち咸豐帝皇位を繼承する事となりたるものにして現皇帝は即ち同帝の皇孫なりされば倫貝子は所謂最近支にして皇室と頗る密接の關係に在り今回倫貝子を差遣して吾皇室を訪問せしめらるゝは頗る親懇の意を表せらるゝ次第なりといふ

●駐日清公使談（下） 去三日夜下關より神戶へ入れる新任清國公使李家駒氏は全地にて左の談を試みたりといふ

▲清國と立憲政體 清國政府は今回三名の憲政考察員を日英獨に派遣し永くその國に居住せしめて詳細に議院制度の取調をなさしむる事となれるが我々の考にては清國は日本の如く將來は立憲政體を採用する事とならんも何分清國は他の立憲國とは風俗習慣を異にして居るを以て新教育の力によりて清國々民の風習を改善し憲法政治を行ふだけて實力を具備せしめたる上ならでは折角の善政体もその効果を收むる事能はざるべし

▲日本人と滿洲土人 日露戰役後日本人が多數南北滿洲に入込み各種の事業に從ふるとなりし結果滿洲土人と種々の衝突を引起す事もある樣なれどこへ双方の意思疏通せざるためならん滿洲土人中には大勢に通ぜざるもの多き故日本人が滿洲にて事業を起す時は土地でも取らるゝ樣に思ひて種々の苦情を申立つることとなるべし日本と清國とが東洋に處する位置は實に大切なれば向後は互に意思の疏通を計り度きもの也云々

●後藤總裁談（一） ……東京にて或人に語れる……

▲對關内外鉄道の競争 新奉線を清國に賣渡したる外交上の得失如何は既往の事に屬し今之を論議する要なし唯だ之が結果として南滿鉄道との競争は止むを得ざる自然の勢なりされど競争は進歩の母なれば頗る愉快に感じ居れり關内外線には經驗に富める英人の技師其經營の任に當り居れば其經營の方法等は參考とすべき點尠からず

▲吉長鉄道の着手期 借款問題其他本鐵道に關する清國政府との協定の遲速に依つて決すべきものなれども大体に於ては高粱刈取後に着手し來年十月頃長春本停車場の建築工事の竣成と同時本線も開通する運に至らんとを希望し居れり

▲野戰病 滿鉄の經營上根本の弊害は野戰病なり予は是等の弊を矯めんが爲め日常苦心し常に下級驛員に對しても彼等の國家に對する職責の重大なるを自覺せんとを赤心誠意勸告し居れる次第なり過般舊野戰部員の大淘汰を斷行したるに當て彼是非難を受けたるも是れ予自ら好んで爲したるに非ず彼等黨與を賴み予の命に服せず寧ろ予に向つて淘汰の斷行を脅迫したるものと云ふを可とすべし

▲外債の成否如何 將來募集せざる可からざる外債の成否如何に就ては目下の處豫想することを得ざるも假しや外債にして成立せざるとも必要なる費額は辨じ得らるる可しと信ぜり（おはり）

●都督府官制問題 昨日着の東京諸新聞は概要左の如き意味の記事を掲げたるが萬朝報の報導最も詳細を極めたり參考の資として茲に掲ぐ說の眞僞は記者の知る所にあらず

關東都督大島義昌、滿鐵總裁後藤新平の兩氏此程相前後して入京したるより世間には早くも暗雲の關東州方面を覆ひ或は都督府と滿鐵會社との間に暗闘あるか如く取沙汰し何事か滿洲方面の形勢に一變化あるを期待されつゝあるが事實上既に民政の大部分滿鐵の掌中に歸し居る今日都督府は單に其形骸を留むるに過ぎざるは爭ふべからざる所にして今後とても滿鉄にては更らに郵便電信を擧けて己が手中に收めんことを期しつゝありと云へば如何なる形体に於てせらるゝにせよ都督府官制の改正されへきは殆んど必然の形勢と見て不可なきか如し都督府民政部の手足斷たれて實權の滿鐵に歸し若くは歸せんとするは上述の如きか元來大島都督と後藤總裁との間柄は後藤氏專ら都督を崇めて溫厚の長者となし辭を卑うし都督に對するより都督も萬事後藤氏の言に傾聽せざるへからざる關係あり唯た民政部の沒落を見て軍政部にては巨頭神尾光臣都督府參謀長鮫島重雄、遼陽守備師團長辻村楠造、關東都督府經理部長の三氏等憤慨すること甚しく躍起となりて都督に權力恢復を迫まる所ろあるも溫厚の長者たる都督は此等部下の不平を醫するに適せず都督も今は兩者の間に介在して漸やく難局に立ちたれは此際入京して何事をか始末の方法を講せんとしさてこそ今回の入京となりたるもの〻如し而も都督か既に家族を任地より歸して單身滿洲を遊歷したる後歸京したる所より推せは或は都督に強き決心あらんかと解するもの尠からず

更らに滿鐵の側に立つて後藤氏の心事を付度するものは氏に都督府行政部縮少の希望はあらんも眞逆全然都督府行政部の廢止を計畫する迄には至らざるへく且つ山縣、寺内の兩氏共後藤氏と最親の關係を維持し居れは大島氏の地位は愈よ以て困難なれとも去ればとて後藤氏との友情を阻隔する迄に至らさるへしと觀察す尤とも陸軍部にては後藤氏の心事を推測して氏の本意は此の際都督府を廢して單に滿洲駐屯軍司令官を置き大連民政署は之を廢して自治制を布んとするものならんと云ひ居れるが何れにしても此問題か如何に結着するやは未た明かならさるも關東州政治の上に變化を見るは今に於て疑なきものと信ぜらる

●摩耶艦の入港期 帝國軍艦摩耶艦は當地居留民警備の爲め來る廿日を以て旅順を發し當地に向け來航する筈なるが同艦は本年結氷期間當港に碇舶し居る由にて目下松茂洋行碼頭近傍にありてドックの築造中なり尚ほ該ドックは天長節前に落成せしむる都合なりと云ふ

●軍艦來港と青年會 別項記載の如く帝國軍艦摩耶艦は近日中に入港本結氷期間を當地に於て經過する都合なるより當地基督教青年會宮田理事等發起にて同艦乘組員一般の便宜を計らんが爲め海兵倶樂部なるものを設置し海兵陸上に於ける休憩所娛樂場に當てんとて目下熱心に奔走中なり尚其場所としては同會夜學會場を充て從來備付ある蓄音器圍碁其他の娛樂器の外に數品の遊戲機械を買ひ入れ殊に喫茶理髮入浴等に就ても充分の便利を計り海兵の冗費を節せしむる都合なりと因みに記す同艦乘組の人員は約百五十名なりと

●徐總督の歸朝 當地最近の消息に據れば上京中の徐總督は來る十八日を以て歸奉すべしと云ふ

●總領事の更迭 就て 加藤總領事より來る廿二日を以て當地に赴任すべしとの電報ありたる趣は既に報ずる所の如くなるが其の後萩原總領事より速かに來任せられん事を促し外務省の意見も同樣なるを以て加藤總領事の來任に出來得る限り早めらるべく着任の上は萩原總領事は速かに事務の引繼を了し歸朝する筈なるが同總領事歸朝の上は外務省に入り人事課長の椅子を占むる筈にて本省に在りて隨時其の對滿政策を助くる事となるべしと云ふ

●領事館開廳后の影響 今回の日露協約に依り浦鹽斯德及ニコラエフスク市に日本領事館を設置し從來の貿易事務館を廢し去る九月十八日より領事館を開廳せり貿易事務館は只貿易に關する事のみに限り日本官憲としての威信は毛末もなかりし爲め邦人に取りては頗る不利益の點多かりしが今回領事館を開廳せし以來之迄の不利益は一掃せられたるが如く在留民は非常の便宜を得居れりといふ

●天津銅元整理 日下銅元下落し物價欽第に騰貴し小民の生計困難にして商人か影響を蒙りつゝあること一方ならず之に就き天津商務總會は補救の法を講し商業の維持を計らんがため數條の方法を立て銅元の下落は各省の銅元市面に溢れたれは此等の銅元を各省に運送すること又た銅元下落の原因は銅元禁止の說を訛傳したるものにて度支部造幣總廠より一般に此事なきを曉諭せられたしとて當地の度支部造幣總廠に交渉する所ありしが該總廠は之に對し本總廠及北分廠は銅元を鑄造するに當り全局の情形に顧み市面の維持を目的として双互に相研究して發行せること二年に及へり本廠は銅元の失落を願はず雖も銅元の價格日に下落するは商會に於ては整頓の法を講をへき時なり思ふに財政處王大臣等は戶部の奏定章程内に各省の銅元を他省に輸出するを得す若し必要の時は相當の價にて買ひ取るへし此場合には無論本廠より證明書を與へたり照會の如く各省に輸出する銅幣に就ては證明書は與へ難し又た銅元禁止訛傳の曉諭は本と是れ地方官の責に屬せり然れとも本廠は市面の維持のため一般に曉諭する所あるへしと返答せりと云ふ

●瀛車の脫線顚覆

▲第一報（十二日午前五時大石橋より特報） 昨十一日午前九時長春發上り列車の海城を過ぎ大石橋に向はんとする途中十二日午前零時三十分頃突然脫線し全車輛八輛の中機關車一輛三等客車二輛轉覆し一時の大混雜を來したり其遭難の詳細は未だ之を知るに由無きも同一時牛海城驛よりの電報により尚大石橋驛に於ては救護の爲め非常列車を臨時發車せしむるとし枕木其他の建築材料及び修繕工事に要する諸器具を積載し島村大石橋驛長及び驛員十數名乘座又人命救助として當地衞戍病院長小林軍醫滿鐵病院長稻次軍醫看護長以下若干名同乘し憲兵隊よりは濱田憲兵特務曹長以下憲兵若干名を派遣し五時大石橋發遭難地に向はしめたり

遭難の狀況等は電文簡にして知るを得ざるも其遭難地は大石橋を去る約二十八哩の地にして死傷者も多少は之れある見込なり其原因も脫線なりや機關車の不良より生せしや又は妨害に由れるや是れも判明せず兎に角大石橋に於て遭難の報に接するや島村驛長は非常の努力を以て非常列車を發すると共に當地軍隊病院憲兵隊に急報し救護の處置に着手し若し負傷者あらは之を大石橋驛に收容すべく己に衛戍病院と交涉し其準備を整へ又炊出米を造りて非常列車に積込ましめたり

▲第二報（午前七時三十分大石橋より特報） 其後の情報に據れば遭難地は海城より約四哩の地にして損害は機關車、緩急車、手小荷物車、郵便車各一台三等客車三台脫線轉覆し二等車は脫線せるも轉覆に至らず重傷者は乘客二名郵便員一名にして輕傷者は未だ詳かならず復舊は本日午後六時頃に至らざれば[illegible]通せざる豫定

▲第三報（午前九時三十分大石橋より特報） 救護の爲め今朝未明遭難地に赴きたる非常列車は八時大石橋に歸來せり親しく現場を見たる島村驛長の談に據れば其原因はレールの天然腐蝕し折れ目より脫線せしものにして機關車を第一とし順次に緩急車、手小荷物車、郵便車、各一臺三等客車三臺脫線右側に轉覆し二等車は脫線せるも轉覆に至らず被害者は最重傷郵便警員一名、日本婦人二人、支那人二人にして輕微傷若干ありたれども幸に大石橋にて準備し置けるが如く多數ならざりしは不幸中の幸なりき重傷者は擔架にて直に衛戍病院に收容せり此遭難に際し嶋村大石橋驛長初め衛戍滿鉄病院醫員は勿論海城よりは守備大隊長及三浦海城驛長も逸早く隨時救護に盡力せり昨夜來交通阻絕の爲め大石橋は營口より來れる者大連より來れる者一時輳合非常の混雜にして中には急用の爲め非常の迷惑を蒙れる者も少からず併し北方行旅客は驛長の盡力により九時半臨時瀛車を發し遭難地丈けは徒步再び海城より發せる出迎車に乘ぜしめ南方行旅客は十時四十分發の瀛車に接續せしめ不完全ながら交通するとを得るに至れり其復舊工事は約八時間を要し今晚に至らざれば開通するに至らずといふ

●通學乘車券規程 滿鐵にては左の如く通學乘車規程を設けたれば學童通學上の便利一方ならざるべし

第一條 小學校の設備なき社線沿道各地方の學童に對し通學乘車券を發賣し其通用期間を發行の日より一個月間とす

第二條 通學乘車券は三等に限り發賣す其賃金左の如し

三等片道賃金（十二歲未滿の小兒は此半額）の七割を減じたるものに五十を乘じたる額

第三條 通學乘車券の購求を望まるゝ方は本人の住所姓名年齡を記載し學校長又は其管理者の在學證明書を添へ最寄驛長に申込まるへし

第四條 通學乘車券の使用は記名本人通學の場合にのみ限るものとす

但繼續の場合は此限にあらず

第五條 通學乘車券紛失の場合は直に該券を購求せられたる驛長に通知し新券の再交付を受けらるへし

第六條 天災事變の爲め引續き三日以上列車の運轉を休止したる場合は日割にて賃金を拂戾すへし、病氣其他の故に因り引續き五日以上乘車せられさる場合に於て其事由を驛長に通告し乘車券を預け置かるゝとき亦同し

第七條 通學乘車券通用期間滿了したるときは該券發賣驛長に之を返戾せらるへし

●遼河船業の開始 奉天の巨商金蓋は遼河瀛船船業の開始を奏請せる由にて既に農工商部は該省の巡撫に移牒し詳細に取調べ報告すべきを命し且つ其の商人に向ひ航業は交通の要政にして必らす資本の充實に俟たさる可からさる旨を通知したりと傳ふ眞否如何にや

●浄土宗の日曜說教 當市新市街浄土宗教會所にては本日午后一時午后七時の兩席に於て佛教協會例會を開催し角田布敎師より法話あり一般來聽を乞ふとの事なり

□夜會の失敗ばなし 法學博士小河滋次郎さんが伯林で或る夜會に招かれて食事の最中ナフキンを落しになつた。そこで、人知れず之を拾はうとして、手をソツと下へ伸ばしたから頻りにお引張りになつた、スルと隣席のお孃さんが、眞赤な顏をしてモヂモヂして居られるから、これは變だと思つて下を覗いて御覽になると、コハ如何に、ナフキンと思つて引張つたのはお孃さんの裾であつたさうです。

筆墨魔

昨今は三井物産の會議があるとかて旭ホテルに泊つてる社員連の猛氣は諸方の料亭に破裂して一昨夜の如きは大分美形に實入があつたそうだ▲三井物産の飯田がアヴい色剛と來てるから雄將の下に弱卒のあらう筈はないが、さりとて余りに下卑た玉を抱かれては三井といふ看板の顏に拘るてあらうと某紳士が話を其儘▲近頃珍物が大分入り込んで來た、清林館に居る戶水汪クンは云はずもがな、旭ホテルに滯在してる大垣巽クンの如きも珍中の珍である▲仝クンは嘗て旅順攻圍戰に中尉として參加した男で隊中でもヒーローの名を貰つた位ゐ、身躰は小さく男前は上々ではないが、膽ツ玉が太く俠心に富んで居て、そして律義なことは此上ない▲大連で土木建築を營業してるのだが今度當地へ來て何にか活動しやうといふので民團所のお隣を借り受けたが近日中に開業の御披露をするそうだ▲巽クンと一間を隔てゝ大日本麥酒會社の近藤勝太郎クンが泊つてた、蠻カラとハイカラの配合頗る妙だ近藤クンは感心な男でアノ小さい身軀で滿洲北清方面の販路擴張事務を一手に引受け着ゝとして良績を擧げてるが、聞けば滿洲で年五十万圓の賣高だとは驚かざるを得ない

公私往來

▲佐藤恒三（大阪森下樂房滿韓部主任）一昨夕奉天より來營清林館に投宿

▲藤井黍五郎（湯崗温泉場主）仝上

▲大久保勘三郎（牛莊競馬會社員）昨日大連より着營旭ホテルに投宿

雜報

●大石橋居留民會解散式 同會は今般滿鐵……

……餘興も之ある由にて同會長長村氏より本社へも招狀を寄せられたり

……民政司使張元奇氏より……なりし各州縣の撰拔員は此程其の業を卒へたるを以て一兩日中に各州縣に分派し夫々自治の調査に從事せしむる筈なりと云ふ

……ユキ（三）は同二十四日、伊賀町ノ區第十三號の一小柳常太郎（三四）及岩代町二十八號地早崎友猪（三七）は同二十五日、市場六十五號……安房町ノ區第一號電氣職工沖田義松妻ユキ（巡邏船にて發見）合田糸市（三〇）は本月一日……及第五波止場碗泊漁船内西村晋松（一八）……

●本願寺の日曜說教 當地舊市街本願寺出張所に於ては例に依り本日午後一時及七時の兩回に日曜說教を開き寺本布教師の說教……

天氣豫報

自十二日午後六時　至十三日午後六時

營口地方　北の風晴れ

三日正十二時より蟠龍山南麓に於て解散式を擧行する筈にて當日有志家に招待狀を發せられたり尚ほ當日は手踊花火摸擬店等の

及び巡警局劉存智等を隨へ東部十餘州縣の自治調査の爲め昨九日出張せり又た從來當地の自治局調査員養成所にて自治研究中

鈴木重一（二）は九月二十日、同所鶴田仁平（八）は同二十…（二九）は仝二十一日、同町三好品吉（三）は仝二十三日、安房町宿舍ノ區第三十五號鈴木若林義男（一）は同三十日、中嶋ブン（二四）及び大山通四丁目…第一號…常太郎は同二十六日、友猪は同二十七日、ヒサは同二十九日、繼壽及ブンは同三十日、大棧橋碇泊船中にて死亡せり

講談 假名太閤記（第八十二席）

松林伯知口演

此方は秀吉公御秘藏の水注の蓋がなくなつたので大いに不審に思召し、先夜廊下に於て怪しきものを見たる始末と云ひ、此は正しく予に仇なす者あつて忍術者などでも使ひしものならん、夫れに付けてもと追がは明智の秀吉、聚樂の方へ凝と目を注けることになつた、間もなく伏見へ御移りになつて樣子を見て居られると、そんな事とは少しも知らない新關白秀次に於ては、此頃村上大膳と云ふ者を以ちまして諸方の大名を招いては色々と御馳走などをする、夫れを秀吉公が御聞きになつて「どうも合點が往かぬ秀次の擧動、在京の諸侯や公卿百官などを集めて茶會〳〵といふて居るが、實に怪しき事てはある」と愈々油斷をしなくなりました、すると一日村上大膳伏見の御城へ罷出て秀吉公に御目通りを願つた、殿下は早速大膳に御遇ひになつて　秀「大膳何おや　大「ヘッ麗しきを拜し恐悅を申上げます、今日大膳御目通りを願ひしは餘の儀にあらず、我君秀次公此度殿下を御慰め申さん爲め狩倉を催さんとの思召し、是非共御成りの程を願ひたく如何にて候や此段伺ひ奉つる」と大膳が申上げると、秀吉公は「オウ左樣か、然らば新關白が予を待遇さんが爲め狩倉を催すと言ふか、夫れは〳〵、儀」と仰しやつて、御太刀一腰其他夫々事なる呉服物等を下し置かれた、大膳大いに喜んで厚く御禮を申上げて直に聚樂へ立歸つて常陸介へ右の次第を申入れた、殿下には大層な御喜びでございました、參ると云ふ仰せがございましたから必らず御成りがございませう　常「ウーム、左樣か」と常陸介も喜んで直に此事を秀次公へ申上げ、愈々近日狩倉を催すと云ふ事になりましたが之は常陸介の考へて、殊に依つたら其時に秀吉を亡きものにしやうと云ふ巧みだ、秀次も元より夫れには異存はない、今度こそは旨くやりたいと思召して居りまする、常陸介に於てはもう其日から人々を指揮して狩倉の用意怠りなく、愈々明日は其催しをなさんと云ふ時になると、伏見の城にあつては石田治部少輔三成之を聞いて、はて合點の往かぬ事だ、近頃秀次の樣子が怪有てあるわい、どうも變である、是は上樣の御成りは御止め申すが安全なりと心付いたが、どうも自分が申上げるのは工合が惡いと云ふので、此事を淀殿まで申入れて御諫言を勸めた、淀殿はそんな事は何でもない、宜しい、妾が屹度御止め申しませうと引受けた、丁度秀吉公の御成りのあらうとする時に「上樣には新關白の御催しの狩倉へ御成り遊ばす由、どうも夫れは宜しうムいませぬから御斷はり遊ばしませ」と例の巧言令色で勸めた、元より秀吉公は秀次の事に付ては怪しく思召して居たところてすから、淀殿にさう言はれると一も二もない　秀「ウム、宜し〳〵心配するな斷はるとも〳〵」と言つて、忽ち秀次公の方へは狩倉へ參ることは出來ぬと御斷はりになつた、さア夫れを聞くと常陸介アッと驚ろいて「ウーム是れは困つた、如何致したら宜らうか」と非常な當惑、秀次公は之れを聞かれて、　秀「何ぢや、何したら宜からうとは、何おや　常「迚も此上は秀吉公の御命を取り奉つることは出來ませぬ、どうにも致方がムいませぬ」と常陸介ホト〳〵弱つて仕舞つた

●規則の發布　都督府中史試驗所規則及び關東洲石材採堀規則發布せらる

●軍監學堂生徒來る　保定府軍監學堂教官以上十二日午后四時生徒八十名來連せり（時大連支社特電）

新小說の披露

假名太閤記は次回より常陸介不破伴作と謀りて太閤殺害の上天下を乘取らんとの大陰謀を石川五右衛門へ打明け五右の忍術を利用して首尾能く關白殺害の目的を達せんとて種々なる計略を廻らす段に入りたるも吾社は紙面改良の實を擧ぐるが爲め東京新進作家として聲名ある**川合柳葉**の創作なる**小說横戀慕**を掲載して愛讀者の厚顧に酬ゐんことに內議一決し全小說數回分は既に作者より廻送ありたるを以て茲に一先づ太閤記を完結し次號より新作横戀慕を掲ぐることゝなせり作者の筆が如何に情湧き景動き**悲喜交も至つて**讀者をして應接に追まなからしむるかは請ふ之を作物に就て徵せられよ　文藝係識す

●故一位局の御性行（二）

東京小石川區白山前町大乘寺なる鬼子母神は局の信仰甚だ厚く皇太子殿下七歲の頃御健康を危ぶむ者ありしが局直にこの鬼子母神に祈願を凝し當時同寺の住職たりし鷄溪僧正と彼の淺田宗伯とは殿下十五歲迄御成長の事を御引受申との旨を局の前に誓ひたれば局一方ならず喜ばれ爾後卅年頃迄月に一回づゝ自ら同寺に參拜せられ僧正は祈禱に淺田氏は醫藥に各肝膽を碎きし甲斐あり殿下御健勝に成らせ給ひしかば局は同鬼子母神の爲に今在る如き壯嚴なる堂を建てられ尚月々御代拜あり昨年一月には母上愛子刀自の玩具を一切奉納せられしかば今同寺の寶物となり居れり、又鷄溪僧正池上本門寺仕職に轉じてより局は屢ば本門寺に參詣せられ會式の際には必ず御代拜あり今本門寺內の長榮天に鷄溪の名にて奉納せる立派なる金燈籠あるは實は局が十五年前に納められしものなりとされば局の皇太子殿下に對する御愛情頗る厚く殿下御幼少の頃より御懷に入れ許りにして鞠育愛撫し給ひしかば其御間柄は御親子も啻ならざる程にて青山御所前に居をトされたるも殿下の御居所に近からんが爲めなりとのこと、されば常に御微行にて互に相往復遊ばされ又殿下が御避暑御避寒の爲めに御用邸等に滯在せらるゝ折には局も共に其地に赴かれ現に去る七月の如きも殿下の御後を慕ひて鹽原の別邸に赴かれたる程なり從つて皇孫殿下に對せられても御愛情頗る深しと

●營口に入るの記（七）

海に投じたものは誰であるか、死んだであらうか、生きて居るであらうか、何故死んだてあらう、死なずとも可さ相なものを等の臆說が最う早や船中に充ち滿ちて居るのであつた。

實とて、月に嘯いて憂へた男、水に走むいて泡沫を揚げた男、可憫相にならぬ之れは病める舩力取樣てあつた。多數の乘客の上陸を一人の病痾で以て遮ぎるのは、實に中譯が無い、自分さへ居なければ、自分さへ死んで了へば乘客には迫めても中譯が立つと考へたらしい。

とう〳〵僕等の一行は二日間大連灣上潮吹く寒風に晒らされて上陸が出來なかつた二日目の午前に至つて撿疫官が遣つて來た聽が千歸り去つた後で漸やく今から上陸が出來るとの報が船中に傳はるや、今度は嬉しさの叫が船中を碎く計りに響き渡つて居る、而して此處に二十人、彼處に二十人、瘦子の聲が音頭になつて萬歲を唱へた抔は滑稽の極てある。僕は思ふた、人間は恐ろしい動物だと、前には船長の三人や四人や打ち擲る位の勢のあつたものが、一瞬の後には最う此狀だ、人間には殘酷なる顚覆性を持つて居る。而して此顚覆性を動かすもの唯だ感情一つである事を。

又しても問題になり度がるのは自稱江戶兒婦人である。上陸の出來ることを福音にても與かつたかの如く切りに饒舌つて居る僕等が種々樣々幾んど言葉で悉くされない錯雜と兇倒を終へて漸やく埠頭に足を下ろした頃は夕陽が大連富士の頂へ今一呼吸と言ふ所であつた。前言つた、大阪訛りの婦人は僕と同鄕だ相で一寸挨拶をして別れた埠頭には豫て來て吳るゝ約束であつた塵牛君が懷かし相に待つて居るので兎も角相携へて本社の支局に入つた、後で聞けば、彼の大阪訛の婦人の亭主は其前々日虎列拉で死んで居るんだ、何と一條の悲劇ぢや無い乎。（留川）

●好角舊話（四）　扶桑生（寄）

▲話が元に戻りて梅ケ谷響矢の一行が東京で京阪合併を興行したのか馬喰町の郡代屋敷だ、其時高砂か京都から一人の力士を連れて來たのがある、それが後年横綱に成つた西ノ海（年寄井筒）なので、其場所で彼は最初に大關梅ケ谷を破り翌日關脇司天龍をも倒した、サア大變だ、此上は彼に對し得るもの大達より外に無いので、帝都の好角家をして眞に膽を寒らしめたのである、大達との勝負は引分に終へたが兎に角大關々脇を仕留たので彼は俄に聲名を博するになつた、今から思へば梅關始め彼か得意の泉川に掛けられたのである

▲全体力士と云ふものは体格力量は云ふ迄も無けれど、第一は稽古である、大阪の若島の前に横綱を張つた八陣（頭取小野川）なとは肉附こそあれたれ、寸と云ふたら至極倭小の方て、生は彼が辰鱗と稱して序の口に居た頃から知つて居るか、非常の稽古好さて同輩の大の松等を凌駕して荒玉、瀧の音から遂に八陣と成つたのだ、稽古の餘德は明かに證據立られる、彼も初は大阪力士てあつた東京の老力士てあつた、鬼ケ谷の上にも早瀨川と名乘り中々の手取てあつた、彼か初て東京に出た時に前記の八幡山と顏か合ひ八幡に一番勝てば入幕、負ければ幕下十兩と云ふ此勝負は實に鬼に取りての試金石なので、此立合に鬼か三十六回待つたをしたなとは有名な話だ、彼か入幕以來殆んと二十年四十餘歲の老年に及ふも尚幕內の地位を保ち得しは一に全く平素稽古を勵げんだ德である

●大相撲十日目の勝負　荒木山綾川は突合ひ綾素早く左差になり一本セヨにて綾の勝は美事なり▲今錦加古川は烈しく突合ひ今素早く左差肩すかし加古巧に殘り立直押出さんとするを今のトッタリ美事きまる▲勝時鳳は突合ひ右四つ鳳のタスキ殘り鳳突手土俵際にトッタリ打時の勝▲左倉川手柄山は立上り左倉二本差手柄の小手投げ左倉殘りとげて右四つ手柄寄みと手投打て左倉の勝▲西昇鳴戶岩は當日の好取組なれば呼聲高し淸く仕切立上る西の左差を鳴戶强引落して西の勝滿塲破るが如くなり▲碇高の泉川西對へ左四つとなり鳴戶の寄身を卷根松は呼出聲もろ共兩力士の土俵に上や同時に白藤の供養の讀經始まり淋しかりき兩力士は淸く仕切立上る高根の左差し碇泉川にきめ出さんとする等高根の肩すかし美事きまる▲土俵の前小綠行司吉岡一學の口上あり七五三の土俵入あり力士一統燒香せり▲中入後琴の浦に三人掛りは土州山荒木山勝時にて琴美事に破る▲小綠いは右四つの寄鼻下手投打て綠勝は實に美しな勝負なり▲有知山朝日瀉は右四つ掬投にて有知の勝は八百長なり▲林琴浦は待ち兼たる取組なれは双方の呼聲立し殊に我社の寄贈賞品等あり化粧立數回立上る手車となり大一氣に押さんとするを引落して琴の勝はあつけなし八百長か力かと疑ふ人もあれど決して左にあらず實際の勝負なり▲右追善の際土俵へ金品を投ずる者少がらす又落淚數行に及べる白拍子もあり我が社よりも亦心計りの寄附をしたり

●琴の浦に賞品を贈る　今回の大相撲につき我が社は聊か賞品を懸けて斯道の奬勵を圖りしに不幸にして全勝者なかりしかば勝星の尤も多き力士卽ち琴の浦に右賞品三越吳服店別製の紅白濱縮緬二疋を昨電の通り贈與したり

●大相撲奉天へ乘込む　大連大相撲は豫定の如く同地を打上げて今十三日午前九時發の列車にて奉天に乘込み十五日を初日として六日間興行し次は遼陽六日間次は旅順五日間終りて歸阪の筈なる由奉天初日の取組は左の如し

綠川（濱ケ崎）　錦（鳳）　川（高根松）
土州山（淸見嶽）　手柄山　綾川（加古川）
荒木山（小綠）　左倉川（鳴戶岩）
朝日瀉（勝時）　有知山（大碇）　大林
琴の浦（西昇）

●奉天かぶら會　去る五日午后六時より奉天かぶら會を白薰吟爐に開けり來會者は歌郞、天見、胡山、江川、其水、如竹、漏月、可笑、紫川の九名にして先つ課題句集を互撰し次て卽吟の互撰をもなし散會せしは翌六日午前二時にて重なる句を擧くれば左の如し

此の村の大閤兵に召されけり　歌郎
虫の聲や露にぬれたる腰の笛　藤霞
見ろばかり只澁柿の色青き　白蕉
著せた子にまた著せ直す夜寒かな　可笑
かこちつゝふんの田の水落しけり　胡山

吳服　太物　洋反物　チール類　メリヤス　綿花　其他一式
冬物荷揃
大連市浪速町　塩久吳服店
（電話二二三番）

●樓主及び酌婦の拘留　當地平野町七福亭事仲野倉次郎方酌婦江戶スエは未だ其筋の許可なき中に客を取り居たるが現に一昨夜の如きも或チャンコロと同衾中警官に踏み込まれたればスエは機轉を利かしたる積りにて銀貨若干を警官のポケットに入れたるに警官は其不心得を諭して銀貨を戻し警察署に引き連れ取調の結果右スエを拘留五日樓主倉次郎を同しく七日に處罰したりと

●大連壽座の替り藝題　開場以來大人氣ある同座にては今日より琵琶歌を演ずる由にて其重なる役割は左の如し

△原爲學士（伊井）△卜女お梅（伊井）△女中お竹（花澤）△家令富永權太夫（西野）△あば館（大山）△番頭安造（大崎）△里野（金澤）△侍女おたの（中村）△四ツ橋太村（上）△村長子息吉田米造（川上）△貞次母お峯（楠本）△貞次父正兵（黑田）△滿井三職（岡宮）△百姓由平（藤川）△令孃花園菊枝（河野）△男爵江島春麿（小西）△武田貞次（愛澤）△西村妻お時（櫻井）△村娘（櫻木）△ぐず新（光田）△車夫万吉（關根）

●滿洲のちり　▲安東　神戶高等商業學校生水上某は滿韓視察の途次同地富久壽美館に滯在中花園樓の園香及び丸小支店の小福に迷ひて旅費をスッカリ失ひ悄々として歸りたり▲大連　西公園に於ける呉服屋殺しの事件は此程豫審の結果光岡市作は死刑堀田伊三郎は重懲役六年に處せられたり▲遼陽　原籍高知縣安藝郡野根村字浦石六十四番屋敷平民當時城內東街憲第一號諸木佐太郎（二〇）は本年五月中無免許にて遊技業を營み其當時七日の拘留に處せられたりしが此程又々許可なくして質屋營業を爲し拘留十日に處せられたり▲奉天　城內大南門裡若芳館酌婦千代子事菅野タイ（二〇）は遼陽機關庫詰齊藤多三郎（二）にそゝのかされて逃亡し同宿舍に潛伏せしが發覺して目下ゴタ〳〵

投書かご

（たくさんほしい）

▲山高く水淸き故山の風景今日此頃は果して如何滿山の紅葉水色爲めに紅なる岸邊には洗濯に余念なき村の乙女の甲斐〳〵しき姿眞に是れ一幅の畫圖嗚呼此等の美景は滿洲那邊にあるのだろう（紫水生）▲村樽氏にお答へ申そ、川柳にては坂井久良岐の川柳梗槪一冊三十錢東京金港堂發行、藤波樂齋の川柳名句選一冊二十錢、京內外出版協會發行、朴念仁の新川柳一冊二十五錢、讀賣新聞社發行等が參考として宜しき書物です（鍋釜子）▲當地に武德會又は尙武會を設立したし（一靑年）▲大連浪花町草の家に春菊と云ふ美形現はれたり梅花の久子なぞより遙に器量がよい（二客）▲旅順三笠町丸八樓は軍艦樓の沈沒を讓受け開業したるは彌生の三月頃て三四二は尾張大根の如く細長く顏は二の町過ぎなれど藝は大根仕込みたげあつて達者なもの（地廻）▲東邦亭のお多勢、眞猫の靜子、沖の島の政子は何れも親切と正直て評判よろし若し嘘と思はゞ一つ實驗して見給へ（比較子）▲鐵嶺万安樓の淸子を進擊したが大に敗北した彼女には橋十と云ふ粹士が附いて居るから（喰歸生）▲千勝館の親爺に尋ねる今度の角力は唯日本人相手に興行するのか又は支那人にも日本の特技を紹介する積りにや支那紳商の眼前で苦力などがノゾイたからとて之を亂打するのは宜しくあるまい如何に我々日本人の目から見ても癪にさはるぞ（滿洲男）▲百花園、投書かご其他三面に關する記事の投書を望む文章などはドンナても判りさへすれば宜し（三面掛り）

□新川柳（投句歡迎）

御亭主の光りを頸懸金ぐさり　うた子
握る手は汗も覺ゆる角力かな　仝
泣く口說く癪をとぼけて舌を出し　仝
おん花を活ける纎手て花も引き　仝
御婦人はなどゝ入道やさしがり　仝
ふをつて金にならせて俗士手ふた葉　仝
一度は銀て殺して逼ても見　仝

特別廣告

修繕中休業致居候處落成仕本月十二日ヨリ相始メ候ニ付續々御浴來被下度候尙每朝八時ヨリ營業仕候

十月十二日　新市街　祇園湯

牛莊郵便局爲替貯金
金銀受拂相場　來十月十三日ヨリ十月十九日迄
軍票又ハ圓銀壹圓ニ付
本邦通貨金壹圓〇壹錢八厘
電話問合ヲ謝絕ス

諸君食料品はどうぞ大連の川村洋行で買てください

大連　北の風晴れ
奉天　北の風晴れ
最低四四　最高六…

廣告
廣告主へ御用の節は滿洲日報にて見し旨御申添被下度

營口出帆廣告

日本郵船會社滊船出帆
●酒田丸　十五日未明出帆大連門司神戸横濱行
御乘客は前晩六時迄に御乘込相成度候
●竹島丸　十八日午前六時出帆大沽芝罘門司神戸行
御乘客は前晩六時迄に御乘込相成度候
●營口丸　廿四日午前太沽芝罘長崎門司神戸行
御乘客は仝日午前迄に御乘込相成度候
（乘船切符發賣ハ出帆前三時限迄　未明出港ノ分ハ前日午後五時迄）
營口代理店　旗昌洋行（電話二六番）

滊船營口出帆
●摩耶山丸（十五日入港豫定）
●頼朝丸（十七日入港豫定）
●音羽丸（十九日入港豫定）
●御代丸　十月十八日入港豫定
松茂洋行　電話（五二、五七）

滊船出帆廣告（營口天津間定期）
●長柄丸
●萬成源丸　十三日入港
代理店　東和公司（電話四一〇番）

大連出帆廣告

日本郵船會社滊船出帆
●薩摩丸　十六日正午長崎行
●酒田丸　十七日正午門司神戸四日市横濱行
大棧橋より發船可致候
日本郵船株式會社大連出張所（電話貳壹〇番）

大阪商船會社滊船出帆
●大義丸　十九日正午門司神戸大阪行
●開城丸　十五日門司神戸大阪行
●鐵嶺丸　二十二日正午門司神戸大阪行
大棧橋より發船可致候
大阪商船株式會社大連出張所（電話貳貳零番）

松茂洋行船舶部滊船出帆
●頼朝丸　十五日午後四時營口行
●音羽丸　十八日午後四時營口行
▲乘船切符は吉野町大山通り角〇ト運送店にて發賣可致候
大連市盤部通り二丁目（電話二五九番）
河邊商店大連出張所　松茂洋行

資本金貳千四百萬圓
積立金壹千五百零五萬圓
本店　横濱
支店出張所　神戸　東京　長崎　大阪　倫敦　里昂　紐育　桑港　布哇　孟買　香港　上海　漢口　天津　北京　大連　旅順　奉天　遼陽　芝罘　鐵嶺　安東縣　長春（寛城子）
電話十番（支配人室）（百八番事務室）
横濱正金銀行牛莊支店

正隆銀行
營口元神廟街二八六
電話（支配人室三四一　事務室二一〇）
總經理人　深水十八
隆記洋行
西營口老爺閣東小紅樓西南側
西分店　電話四二

營口大石橋間

新築落成御披露
の爲此際懇切叮寧を旨とし特別大勉强大販賣仕候間何卒陸續御注文仰付被下度奉願上候
寸法用書改正第八版定價表郵券二錢送付あらば進呈
登錄商標
クリーム製造元　獨逸國伯林市　ハイデ商會　日本代理店
雜貨直輸入靴鞄製造問屋
東京市芝區櫻田伏見町　內田直二商店（電話新橋一五五一番）
●近來此の黑クリームの摸造品を販賣する者あり　登錄商標櫻印に御注意を乞ふ

土木建築請負
煉瓦石、石灰、石材及び各種建築材料
各地出張所所在地
●大連　●長春　●公主嶺　●鐵嶺　●湯崗　●奉天　●張臺子　●千金寨　●遼陽　●廓家店
營口　飯塚工程局（電話一六五）

旅館　大和館
永世街第三十四號（電話壹壹番）
店主　前田九一郎

◎眞正大島紬
一元祖薩摩大島直仕入
一御本御一覽ノ上縞柄等ハ速ニ新製取寄可仕候
一特約販賣御希望者ハ御相談可仕候
現品並ニ見本三百餘種
大連市信濃町大通
織元出張販賣所
米穀酒類食料品卸商　仝江口公司

純良醫藥
工業藥品
著名賣藥
醫料器械
卸小賣
營口永世街　東瀛大藥房
電話一四八番　振替貯金七〇一
藥劑士　中馬龍造
中馬藥局
分店（營口新市街本町一丁目　營口永世街（通順泰東））

日本朝鮮白米
其他雜穀
澤龜酒、(萬)醬油、味噌
魁酢、罐詰、東京澤庵
其外乾物類一切
營口　大原洋行（電話三三三）

和洋完備　遼東ホテル
大連市信濃町（電話壹參一）

機械製煉瓦石發賣
弊製造所義兼而「コルニシュ」式素地型成機械並に嶄新なる素地乾燥室建設中の所去月下旬竣工本月一日より全機械力に依り製造室內の乾燥に着手仕候所豫期に異ならず製出の煉瓦石は形狀方正表面滑澤にして裝飾用として頗る高尚優美品質緻密耐壓力强靱吸水量僅少に候故土木建築用として適品と確信仕候得共尚實物御一覽の上御高評を相願度先は右御披露迄
營口牛家屯　營口煉瓦製造所（電話二四二）
販賣所　營口元神廟街　泰東公司（電話一三五）

機器鐵廠　川喜鐵工所
營口楊家街
電話三五一番

支那松　大角及尺角　貳拾壹尺
仝　二寸板一寸板　貳拾壹尺
仝　製材角及板類　貳拾壹尺
二道溝渡一才　銀票八錢五厘
鉄嶺渡一才　仝拾壹錢
奉天渡一才　仝拾壹錢五厘
右の外御望に應じ製材御調辦可仕候也
公主嶺　北辰公司支店
寛城子北門外　仝出張所

專業旅館　東京樓
營口乘車乘船最好の位置　電話一八七
團隊四人樣以上は規定宿料外格安勉强割引可仕候各等御下宿は面議廉價御賄可申上候
營口永世街（電話一五五）

森病院
外科　產婦人科　齒科（入院隨時）
院長　森矯

御料理　觀音樓
旅順三笠町

一般患者ノ診療ニ應ズ（往診入院隨意）
院長醫學士　松井甚四郎
新市街賀來街
營口同仁醫院
電話番號（七八番事務室　一七一番病室）

頭彩壹萬圓
第二十四次
大連彩票賣出
開彩十月二十六日
裕和盛（電話八壹）

◎御進物用洋服地壹組にても御注文に應じ申候
嶄新流行◎

羅紗類販賣部開設
今般東京に於て有名老實なる羅紗商植村商店植村傳助氏と組合商品は同店に於て多年特約の關係ある英國より總て直輸入仕嶄新流行の時好品を撰定し親切と信實とを旨とし專ら需用諸彥の御便宜を相圖り精々勉强仕候且價格の義は稅關の關係にて日本內地よりも餘程廉價にて販賣仕候間多少に不拘御購求御引立の程偏に奉希候　敬白
冬物荷揃
見本御入用の節は御申越次第御送り可申候
羅紗毛織類並に洋服地附屬品直輸入
奥田商店羅紗部
韓國仁川港日本居留地本町貳丁目六十號地

高等旅館　松華ホテル
鐵嶺西門外火神廟

新荷廣告
○○大塊石炭及無煙炭
○○木炭
○○亞鉛板及洋釘
○○セメント
○○日本白米
○○消石灰
右各種は弊行雇船音羽丸にて今回到着廉價販賣致候殊に無煙炭は火力强大普通石炭の參倍余の耐久力を有し室內を汚染せず煙筒掃除の必要なし至極經濟的に候市內は御注文次第多少に不拘配達可致
材木商　營口　喜久洋行（電話三一四）

鐵嶺　高砂ホテル

專業旅館並に高等下宿
營口新市街千代田街
日本旅館
店主　三野傳藏（電話一三〇）

營業品目
●白米　●硫黃
●木炭　●石炭
●食料品　●雜貨
委托販賣
大連奥町
山縣大連支店
發信署語（ニ）「電話二二七」

會席御料理
御旅館
鐵嶺西門外　彌生
彌生倶樂部
新調の玉突臺及將棋盤等備付あり

東京圓城製
●消毒用●化粧用●洗濯用とあり
ホルマリン石鹼
は各地の藥店に賣捌す有効なる事は去る九月一日滿洲日報廣告欄を見られよ
正金銀行前　藤田盛大堂

專業旅館
室內清潔
清林館
丁寧親切
營口新市街　電話三〇一番

遼東病院
▲診察の上入院隨意
▲入院料　自金壹圓五拾錢　至金五圓
旅順八島町貳番地（郵便局隣）
院長　今村春逸

和洋諸紙卸商
大連市伊勢町四二號地
渡邊大連支店

物價

營口爲替相場（十月十二日）

正金銀行一覽拂（百圓ニ付）
內地 一〇〇圓
天津 一〇三圓四分ノ三
上海 七一兩
芝罘 一〇四圓四分ノ一
銀塊相場 廿九片十六分七

同通貨相場

正隆銀行 受 拂
銀貨（百圓）軍票 九九、五〇 九八、〇〇
金貨（百圓）軍票 九九、三〇 一〇〇、〇〇
「ルーブル」軍票 一〇三、〇〇 一〇四、五〇
墨銀ト軍票 一〇三、四〇 一〇五、〇〇

▲營口物價▼

●大豆豆粕
▲豆粕 一兩七
▲新豆 九兩五
▲全

（新市街盛進商行調）
縉正宗 四五入壹樽 一七、五〇
全 二〇入全 一一、〇〇
全・ 二二入全 九、五〇
スペシャー 四打箱 二二、五〇
ルライト
エビスビール 一函 九、三〇
醬油金京印 一斗入一樽 三、七〇
全 銀印 二入 全 六、五〇
全 二入 全 五、〇〇
孔雀印平の水 一函 四、五〇
シャンピンサイダー 全 五、〇〇
シンジャエール 全 五、〇〇
防長上米 石 一四、〇〇
中國上白米 全 一三、五〇
朝鮮白米特等 全 一三、〇〇
全 上 全 一二、〇〇
薪 正味十貫 一、七〇
極上本炭 全八〆 一、二〇
宇治玉露 斤 三、五〇
全 高砂 全 三、二〇
止喜撰 全 九、〇〇
烏龍茶上 全 三、二〇
全 中 全 一、五〇
青柳 半斤 一、二五
娘印ビスケット 磅入打 四、五〇
ハウスホールド全 全 六、〇〇

スポンヒー 全 七、〇〇
ローズ 全 七、〇〇

●日本綿布相場（永順洋行）
牡丹牌大尺布 一疋 一兩四〇
桃牌全 全 一、三五
實字佛青布 全 一、二五
全 藍布 全 一、二五
堅字佛青布 全 一、三〇
全 深藍布 全 一、〇〇
花旗佛（麒麟印）廿碼 二、六〇
青布
東洋緞子（孔雀牌）頭等 一碼 三二
全 二等 一碼 二〇
東洋花手巾 一ダース 三三
全毛手巾 一ダース 五五

（舊市街大原洋行調）
澤龜（四五入）一樽 一七、〇〇
瓢永印味淋 一函 一四、〇〇
櫻印菊霜酒（四打入）全 一九、〇〇
龜甲萬醬油（四打入）一樽 三、九〇
龜甲鶴醬油（一號）全 三、〇〇
全 上（二號）全 二、四〇
全（大）全 八、五〇
薬香印 全 三、五〇
醬油斗樽 全 六、〇〇
鯱印酢（大）全 五、二〇
本京澤庵（大）一樽 一三、〇〇
ならづけ 全 六、〇〇
うめぼし 全 五、五〇
紅生姜 全 二、〇〇
小田原蒲鉾 斗
全 瓶詰（四〇入）一函 九、〇〇
白味噌（八入）一樽 七、五〇
都味噌（全）一樽 七、五〇
金山寺味噌（五入）全 四、三〇
椎茸（十貫）七五、〇〇
淺草海苔（千枚）一一、五〇
鰹節土佐（十貫）七〇、〇〇
全 薩摩（全）五〇、〇〇
干瓢（五貫）三、七〇
片栗粉（十貫）七、〇〇
白玉粉（百本）八、五〇
鶉豆（全）六、〇〇

高野豆腐（千個）六、五〇
燒麩（全）一、二〇
利尻昆布（十貫）[illegible]
白髮昆布上（全）[illegible]
切 全（十五）[illegible]
花寒（全）[illegible]
鳥門若布（十貫）[illegible]
寒天（百本）[illegible]
同 中（全）[illegible]
蒙龍昆布（全）[illegible]

（新市街加藤洋行調）
英國製中折帽 （四、五〇〇）
黑山高帽子 （四、六〇〇）
鳥打帽子 （二、八〇〇）
ラクダ毛防寒帽 （一、五〇〇）
ラッコ毛皮帽 （五、〇〇〇）
スコッチ靴下 打 （四、〇〇〇）
全 長靴下 全 （三、〇〇〇）
カシメン手袋 全 （八、〇〇〇）
スコッチ手袋 全 （八、〇〇〇）
皮手袋 全 （二、〇〇〇）
毛メリヤス上下組 （三、五〇〇）
全 ジャケツ 全 （四、五〇〇）
舶來毛メリヤス全 （四、六〇〇）
白毛布 二枚續 （二、〇〇〇）
色全 全 （二、〇〇〇）
舶來綿全摸樣入 （三、五〇〇）
ネル地膝掛 （一、五〇〇）
ラクダ膝掛 （一、七〇〇）
モヘル （四、五〇〇）
羽根蒲團 （一、〇〇〇）
全繻子地 （三、〇〇〇）
クッション （二、五〇〇）

●石炭類（寶久洋行）
撫順上塊炭 一噸 [illegible]
煙台炭 全 [illegible]
本溪湖炭 全 [illegible]
●木材類
鴨綠江沿川板類
板廿八番六尺 一枚 [illegible]
全 七尺 全 [illegible]
全 八尺 全 [illegible]
平板全 全 [illegible]
●洋釘類
七分五厘 一インチ 百斤 [illegible]
一インチ二分五厘 全 [illegible]
一インチ半 全 [illegible]
一インチ七分五厘 全 [illegible]
二インチ 全 [illegible]
二インチ半 全 [illegible]
三インチ以上 全 [illegible]
●穀類
肥後一等白米 壹石 一三、〇〇
市內配達は苦力賃申受候

●清商綿布綿糸綿花相場（一疋ニ付）（〇印は日本品）
〇十六封度藍澤 [illegible]
〇十六封度綿布 [illegible]
十丈老船牌 [illegible]
彩船牌 全 [illegible]
人頭茶 全 [illegible]
紅竹 全 [illegible]
六丈貨 全 [illegible]
全 燈塔 全 [illegible]
十大大小英花旗布（一疋ニ付）[illegible]
〇一號甲 全 [illegible]
〇二號二甲 全 [illegible]
一號人馬 全 [illegible]
二號人馬 全 [illegible]
獅球 全 [illegible]
十五龍印打運布 [illegible]
老雙龍 全 [illegible]
小英 全 [illegible]
大熊星 全 [illegible]
八丈哆囉呢布 [illegible]
同興機布（百尺ニ付）[illegible]
永孚 全 [illegible]
朱大錦 全 [illegible]
廣大和 全 [illegible]
大昌 全 [illegible]
和 全 [illegible]
大裕潮水布（二四二）[illegible]

▼臺場物價▲（百斤ニ付）
九筝棉花 [illegible]
雪花 全 [illegible]
東元七全 [illegible]
東衣 全 [illegible]
雙成 全 [illegible]
藕 貨 全 [illegible]

白米 四斗俵 [illegible]
味噌 一貫目 [illegible]
砂糖 一斤 [illegible]
醬油 一斗 [illegible]
酒 一升 [illegible]
石油 一罐 [illegible]
魚類罐詰 一ダース [illegible]
野菜全 全 [illegible]
牛肉全 全 [illegible]
バター 半ポンド [illegible]
ソース 一ダース [illegible]
●菓子類
ビスケット 磅 [illegible]
ドロップス壜入 全 [illegible]
バター鑵入 全 [illegible]
コーヒー 壜 [illegible]
壜詰酒 機械口 全 [illegible]
エジプト煙草 百本 [illegible]
メリケン帽子 一個 [illegible]
鳥打 全 [illegible]
カラー 全 [illegible]
ワイシャツ 全 [illegible]
フランネルシャツ 全 [illegible]
木綿メリヤス上下 [illegible]
シャツ [illegible]
毛全 全 [illegible]
下 打 [illegible]
石綿 一貫目 [illegible]
下駄表付 一足 [illegible]
全 桐前バキ 全 [illegible]
全 田桐全 全 [illegible]

半紙 壹〆 [illegible]
硯箱 壹個 [illegible]
筆 壹對 [illegible]
墨 壹挺 [illegible]
ツボンツリ 一 [illegible]
算盤 一 [illegible]
封袋 百枚 [illegible]
卷紙 一本 [illegible]
チリ紙 一〆 [illegible]
ネキタイ 一 [illegible]
ネキタイピン 一 [illegible]
石鹼 舶來一 [illegible]
全 內國製一 [illegible]
茶器之揃 一組 [illegible]
全九谷燒 全 [illegible]
急須 一 [illegible]
土瓶 一 [illegible]
小皿 百 [illegible]
中皿 全 [illegible]
三ツ鉢 壹組 [illegible]
水差 一 [illegible]
飯茶碗 一 [illegible]
盃 百 [illegible]
醬壜 百 [illegible]
正喜撰 一斤 [illegible]
川柳 全 [illegible]
手帳 一冊 [illegible]
通帳 全 [illegible]
簿記帳 全 [illegible]
インキ黑 一磅 [illegible]
全 赤 半 [illegible]
石鹼函 [illegible]

著箱 一 [illegible]
ハンカチーフ木綿 一打 [illegible]
全 麻 全 [illegible]
全 絹 全 [illegible]
人形 一 [illegible]
足袋 黑 一 [illegible]
全 白 一 [illegible]
カタン糸 一打 [illegible]
香水 一 [illegible]
壁紙 內地製 百枚 [illegible]
全 獨乙製 一卷 [illegible]
行李 竹 一 [illegible]
全 柳 一 [illegible]

●精白米（一石ニ付）（西崎商發行）
特等（◆赤印）[illegible]
壹等（◆紫印）[illegible]
貳等（◆青印）[illegible]
●罐詰類
鮭（一斤）四ダース [illegible]
鱒（半斤）八ダース [illegible]
鯖（一斤）四ダース [illegible]
鰤（半斤）八ダース [illegible]
●化粧品
御園四季花壹ダース 大 [illegible] 小 [illegible]
御園の雪 全 [illegible]
御園とき水 全 [illegible]
全 固齒磨 全 [illegible]
壜入 全 [illegible]
チェリーオイル全 大 [illegible] 中 [illegible] 小 [illegible]
チェリーポマード全 [illegible]

（向井洋行）
清酒金露 四斗四升 合 [illegible]
札幌ビール四ダース函 [illegible]
醬油上印 壹斗 [illegible]
全 梅印 全 [illegible]
全 櫻印 全 [illegible]
全 福印 全 [illegible]
東京澤庵漬十二貫 [illegible]
娘印ビスケット磅 [illegible]

▼大連物價▲

●和洋食料品（吉野町二丁目河村洋行）

東京澤庵（各十樽ニ付）、奈良漬、味噌漬、生姜、茄子、紫蘇、福神漬、甘露煮、白味噌、仝、山寺味噌、万印醬油、山サ印、山印、平和印、牛肉（各函ニ付）、まぐろ乙煮、鰹、鮭、鰯 …… [illegible]

●木材（秋田商會支店）

杉四分板 壹間半ー壹坪、仝、杉六分板、仝、松壹寸板、松壹寸参分板、松ノ分板、松六分板、松壹寸参分、松八分板、松四分板、杉板貳間、杉大貫、杉中貫、杉小貫、杉木摺 …… [illegible]

杉垂木、仝、松敷居、松垂木、杉大角、杉挽小角、杉押小角、杉大角、丸太松角 …… [illegible]

●洋鉄類（三貫目ヨリ以上）

丸鐵、角鐵、平鐵、丸、角、平、鋼鐵 …… [illegible]

●セメント類

セメント …… [illegible]

●鍬及学笏

[illegible]

●世帯道具（信濃町増井商會）

十四両バケツ、炭箱、大、中、つや消、膳、火鉢、蒸物板、物干、菓子椀、蒔絵入 …… [illegible]

▼奉天物價▲（小賣相場）

醬油、鮭、白味噌、紅生姜、つめばし、京、澤庵、奈良漬、山寺味噌、赤味噌、浅草海苔、片栗粉、白玉粉、小豆、大豆、米 …… [illegible]

●銀市（十月十一日）

現銀、鈔票、銀元、日本手票、毎十圓ニ付、日本金票、軍票 …… [illegible]

●木材（小西邊門外東盛洋行）

杉丸太、杉四分板、杉二間貫、松二間敷居、杉四間足場丸太 …… [illegible]

▼鐵嶺物價▲

●穀類

白米、防長、朝鮮、元、大豆、小豆、黒豆、高粱、白豆、黄豆、豆粕、小豆 …… [illegible]

●味噌

白味噌、赤味噌、山寺 …… [illegible]

●漬物

奈良漬、大根、梅干、紅生姜、花らっきょう、白瓜、保萬 …… [illegible]

●醬油

萬國、甲印、山サ印、菊印、甲子印 …… [illegible]

●酢

甲印、全、白鷹印 …… [illegible]

●乾物

浅草海苔、椎茸、干瓢、アナゴ蒲焼、鯛味噌、カレー粉 …… [illegible]

●茶

こぶ茶、玉露、上等、煎茶 …… [illegible]

●洋麵

寶印、紅印、東印、菊水印、寒比羅印 …… [illegible]

●清酒

菊正宗、澤之鶴、白鹿 …… [illegible]

●麥酒及洋酒

旭ビール、札幌ビール、キリンビール、スタウト、葡萄酒 …… [illegible]

●飲料水

孔雀印平野水、シャンペンサイダー、ラムネ …… [illegible]

●罐詰類

大和煮、福神漬、松茸 …… [illegible]

勞働者賃銀

一日分賃銀　日本人　支那人 …… [illegible]

▼長春物價▲

大豆、小豆、高粱、粟、豆粕、黒砂糖、白砂糖、米、酒、味噌、醬油、石油、蠟燭、石炭、木綿、綿布、小麥粉、栗、毛布、葉煙草、全、大豆、七、ビール、軍票 …… [illegible]

石工、左官、大工、木挽、鍛冶職、煉瓦職、指物職、桶職、ペンキ職、武力夫、土方、紙貼職 …… [illegible]